

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～今年度の夏季賞与と長期的な需給要因を考慮した住宅着工戸数を予想しています。

2010/3/31 「2010年夏季賞与予測～10年夏季賞与は前年比+2.6%と、夏季賞与では06年以来の増加を予想～」

2010/3/30 「2009～2011年度の住宅着工戸数予測～09年度は77.6万戸、10年度は87.0万、11年度は91.2万戸を予想～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2010/4/12 「Market Watching Weekly Market Report」(毎週月曜日配信)

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～企業が設備投資に躊躇する背景を探り、成長戦略の重要性を説きます。

2010/3/29 「実感なき設備投資回復の道～キャッシュフローがあっても投資は抑制～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～消費税率引き上げを実現するうえでの現実的な課題について分析しています。

2010/4/2 「消費税率引き上げの影響～構造的財政黒字化には+22.3%の上げ必要。名目GDPターゲット導入を～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～問題が表面化した欧州経済、注目を集める新興国経済について解説しています。

2010/4/1 「米国：オバマ政権の輸出倍増計画はドル安を促すリスクを孕む」

2010/4/1 「調達金利の高止まりがギリシャ財政に及ぼす影響」

2010/3/30 「南アフリカ経済事情：利下げで通貨安志向を前面に押し出す」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

会社同士の経営統合が破談になることがしばしばある。そこでは「経営方針をめぐる考え方の違いが埋められなかった。」という理由が目につく。経営方針をめぐる考え方の違い、とは一体何だろう。

いわゆる対等合併では、強い者同士の統合交渉が互いに譲らずにまとまりにくいことは想像できる。しかし生き残りを懸けた統合は別の意味で障害が大きい。それは縮小均衡が不可避だからだ。企業存亡の危機が迫っていても、長年守ってきた自社の経営資源やブランドが消えることは耐え難い。とはいえ統合を見送って「緩やかな連携」にとどまれば、得られるものは小さい。

日本経済にとって企業の再編は依然重要な課題である。国内経済が成熟し、国際競争がますます厳しくなる環境では、従来別々だった経営資源から統合によってより高い付加価値が見込める意義は大きい。過当競争の収束だけでなく、経営資源を効率的に活用し収益性を高め、海外展開に必要な体力を確保するための生産性向上は今の日本の産業にとって重要である。「考え方の違い」を乗り越えて、新しい価値を生む成長企業に生まれ変わる英断を期待したい。

(H. U)